

働き方を学びほぐすアンラーニング

- 日時 2023年7月10日(月) 13:00~14:20
- 講師 松尾 睦 教授
(青山学院大学 経営学部 経営学科)
- 会場 Zoomによるオンライン開催
- 対象 学内教職員、非常勤講師、大学院生

企画趣旨

経済のグローバル化や少子高齢化等の影響もあり、大学を取り巻く環境は、日々大きく変化しています。このような先の見えない状況下では、過去の経験や常識にとらわれず、働き方や職場のしくみを入れ替えていく「アンラーニング」が求められます。今回の講演では、職場で働く個人がどのようにアンラーニングを進めているかを紹介した上で、大学という職場で大学教職員がどのように学んでいくべきかについて考えたいと思います。

申し込み方法・問い合わせ先

下記URL等からお申し込みください。

https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZYucuspzIvH9SIbRwyf6byQQriNOyQbM_C

※お申し込み後、参加方法の詳細が 自動メールにより送付されます。

《お問い合わせ》

名城大学 大学教育開発センター

TEL: 052-838-2032 (内線: 2653)



第18回 FD・SD 学習会 実施報告

1. 実施概要

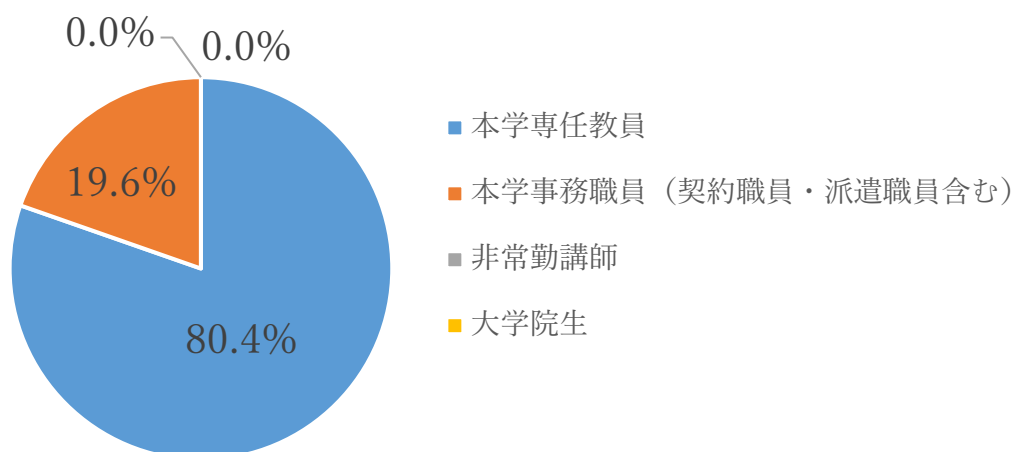
- 日時：令和5年7月10日（月）13：00～14：20
- 場所：Zoomによるオンライン開催
- テーマ：働き方を学びほぐすアンラーニング
- 講師：松尾 睦 教授（青山学院大学 経営学部 経営学科）
- 参加者数：86人（専任教員63人、事務職員23人、非常勤講師0人、大学院生0人）

2. アンケート方法等

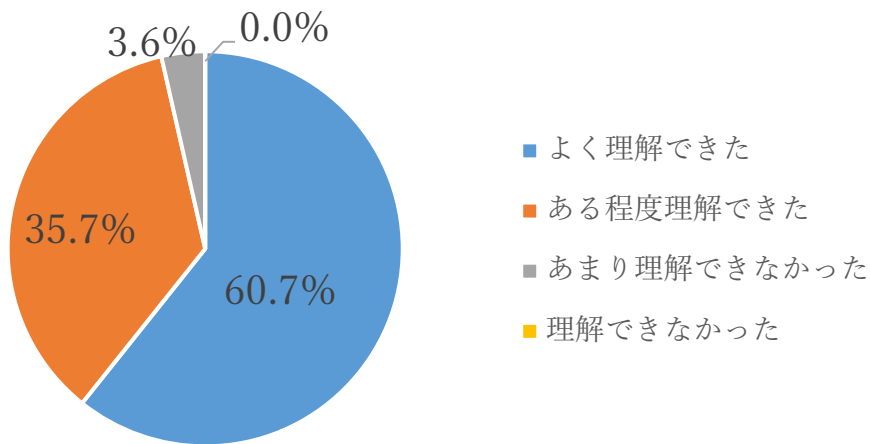
- アンケート方法：Google フォーム
- 質問項目：以下のとおり
 - ①所属をお知らせください
 - ②本日の内容は、理解できましたか？
 - ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？
 - ④本学習会の満足度について教えてください
 - ⑤講演の感想をお聞かせください
 - ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
 - ⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。
- 回答者人数（質問①～④）：56名
- 質問⑤～⑦について主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

3. アンケート結果

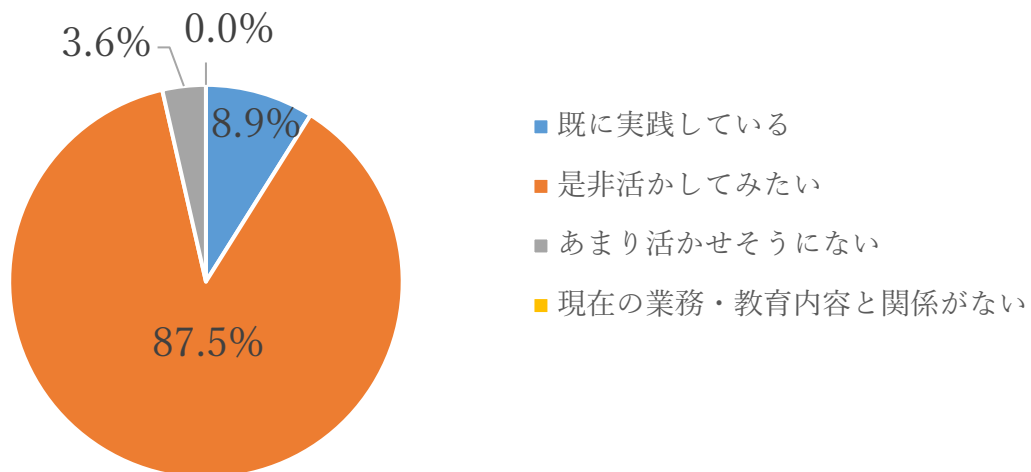
①所属をお知らせください。



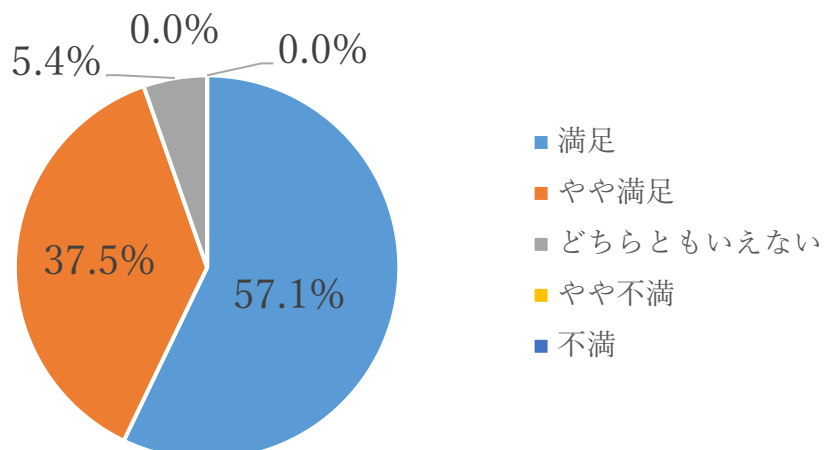
②本日の内容は、理解できましたか？



③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？



④本学習会の満足度について教えてください



⑤講演の感想をお聞かせください

- ・聴講者が参加できる形での講演で、考えながら参加することができた。
- ・事例が豊富で分かりやすかったです。
- ・「アンラーニング」について考えるきっかけにしたいと思います。
- ・アンラーニングという新しい概念を理解することが出来ました。
- ・謎習慣の消去が重要であると感じた
- ・日々の意識が重要であるため、自分だけでなくチームの意識も変えられる環境に変化させたい
- ・今まで当たり前になっていることを定期的に振り返り、適切な方法なのかを考えることが、自己の考え、振舞い等を変えていく第一歩だと認識した。
- ・組織的な取り組みにしていくと良いとおもう。部署が変わった人から話を聞く、他大学から来た人の意見を聞くは、ぜひ、基本的なとりくみにしたい。
- ・様々な事例を用いてご講演いただけただことに感謝いたします
- ・業務改善として実行していることの横展開の必要性、今一度、組織の中の業務のやり方を見直す良いきっかけとなりました。ありがとうございました。
- ・自身の立場や部署全体のことを考えながらお話を聞くことができました。大変勉強になりました。
- ・大学での業務はクリエイティブなようでルーティーンが多く、効率よくルーティン化することで乗り切れている面があり、アンラーニングすることは勇気がいるが必要なことだと感じた。
- ・刷新のリスクより不変のデメリットの方が大きい場合はまずは勢いで変化してみようと思いました。
- ・内容は面白かった。「アンラーニング」という言葉に違和感がある。
- ・日々の業務の振り返りをして、変化を求めてより良い教育・研究を進めていきたいと感じました。
- ・Unlearning の日本語訳（学びほぐし、知の断捨離）に興味を持った。常にアップデートが必要ですね。
- ・教員間の連絡を Slack に変えることで迅速に行えるようになったが、一部教員が Slack を使えないことで、結局電子メールでの連絡も併用せざるを得ない。こういったケースでどのように教員の意識を変えていけばよいか、事例があったら是非お教え願いたい。
- ・なかなか聞けない話で、非常に参考となった。
- ・少しずつ、今の業務について見直しをしていきたいと思う。”
- ・大変刺激になり、自身で取り組むべきポイントが満載でした。
- ・アンラーニングにより次の発展を期待できることが理解できて良かったと思う。
- ・異動がなくアンラーニングをまずしないであろう部署の職員に見せてほしいと思いました。
- ・最後の質疑応答の箇所が印象的であった。各々の業務があり、なかなか時間がとれない中、どのように全体に共有していくか（アンラーニング）という点が大切なように感じた。
アンラーニングを進めるポイントについて、わかりやすかったので挑戦できそうである。私は中途採用者であるが、4月に入職しなぜ？と思うことがあるのでメモに残し少しでも改善できるように取り組んでいきたい。
- ・個人的には、色々ベターなことを取り入れ、やってみて、うまくいかなかったら変えていけば良いと思うタイプなのですが、前例が無い、こういうルールだから、等など、抵抗にあうことが多々あります。それを打ち破るには、やはり上の方の度量が必要とさせていただきます。言っても、やっても変わらなければ、言わなくなり、提案しなくなり、自分のことだけをやっている組織になって行くのに と、より一層、感じました。
- ・ご講演の内容はごもっともなことばかりでした。話ずらいこともお話し頂き、ありがとうございます御座いました。質問としては、時間軸はどのように考えれば良いのかということ。毎年、リニューアルするのもかえって良くないような気がします。やはり10年程度を一区切りとすべきでしょうか？
- ・松尾先生の書籍「経験からの学習」を随分と前に購入して読ませていただきました。何かを学ぶためには自ら経験する以上に良い方法はないということを兼ねてから意識していましたので大変共感しています。そして、今回のアンラーニングという視点を取り入れることで発想やアイデアの発掘につながるということが理解でき、大変勉強になりました。
- ・「教訓のアップデート」というところを実践したいと思います。ありがとうございました。
- ・固定概念にとらわれない大切さを学びました。「気づき」があってこそそのアンラーニングだと思いますが、なかなか気づくことが難しいため、日々視野を広く持っていたいと思いました。そして小さなことから始めていき

いと思いました。また、新入職員ということを活かし、新しい考え方を取り入れられるようになりたいと思いました。

- ・講演内容は明快なのですが、そうであればあるほど、実際に物事を動かす際に壁を感じざるを得ず、そのあたりの難しさに思いを致さざるを得ませんでした。
- ・本学の働き方も学びほぐす必要があると感じました。前例主義、右から左への仕事、乱れた文書、思考停止に陥っている仕事が見えます。このことは個人レベルおよび組織レベルで早急に改善する必要があると思います。できれば、この100周年の機会を利用し、業務のDX化推進、ある程度費用を掛けてでも行う必要を感じます。少子化は学生募集のみならず、教職員採用の面でも困難な状況になると危惧されます。AIを利用できる仕事は任せ、利用のできないアンラーニングなことは、一人一人の教職員すなわち組織全体での意識改革により行っていかなければならないと思いました。

⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・何か改革出来ればと思い参加しました
- ・教授会でのアナウンスメント
- ・事務からの連絡
- ・学びほぐすという言葉に引かれた。
- ・仕事の仕方を変えてみるヒントを得るため。
- ・効果的な手法、仕事の効率化などが急務だと感じていたため。
- ・変化に対応する方法論を学ぶため。
- ・自身の知識向上
- ・Zoomによる実施のため、参加しやすい（参加時間を確保しやすい）。
- ・今後必要なことであるとの認識から申し込みをしました
- ・アンラーニングについて興味があり、今後の業務に活かせればと思い申込をしました。
- ・アンラーニングというキーワードを最近よく耳にするため。大学の初年次教育で高校までに学習した内容を部分的にアンラーニングさせる必要があると感じることがたまにあるなど関心もあった。
- ・認証評価で指摘のあったFD及びSDの参加率向上に資するため
- ・FDは常に参加している。
- ・学部の大学教育開発センター委員として、出席した方が良いと判断したため。
- ・在職期間が5年を超えて色々な業務にこなれてはきたものの、同時に閉塞感も感じている。上手くいっていないことについては現状を打破しなくてはいけないという思いがあったため。
- ・頭を切り替えるということを考えるきっかけになればと思いました。
- ・現在の自分の働き方は間違っていないかを確認したいと思って。
- ・FD学習の必要性
- ・「アンラーニング」という言葉を聞いたことがなく、内容を知りたいと思ったからです。
- ・FD/SDのさらなる推進のため
- ・アンラーニングというキーワードに興味があったから
- ・アンラーニングという言葉が何を意味するのか知りたかった。

⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。

- ・大学でのDXの推進について
- ・教育のDXについて
- ・授業改善に興味があるが、今回のように大学の仕組みそのものを考え直す機会を作ってくれるようなFDも良いと思います。
- ・学生気質の変化とそれへの対応
- ・いろいろなテーマで学習会を実施していただいていますので、今後も期待しています。
- ・特定の曜日・時限に問わず参加できる形態をご検討いただけましたら幸いです。
(講義や授業準備とバッティングするのを避けるため。)

以上